



目次

シリーズ わが現役時代	新制一橋山岳部の基礎固めの時代	キリマンジャロ紀行	回想・キリマンジャロ	サファリ報告	準備と費用報告	中高年のための北海道おすすめ山スキー 20 選	アジア往復旅行 1 年 2 カ月	三月会通信	三四郎会総会の報告	針葉樹文庫見学会報告	妙高山遭難事故速報	甲 辞	編集後記	表紙写真「越後三山・丹後山にて 撮影・川名真理
上原 利夫	中川 滋夫	中川 滋夫	遠藤 晶土	小島 和人	小島 和人	小野 肇	田形 祐樹	岡田 健志	蛭川 隆夫	25	31	32	32	32

発行日 2009 年 6 月 24 日

発行者 針葉樹会
(会長 竹中彰)

印刷所 ヤマノ印刷(株)

針葉樹会報
第 115 号

編集人 小島 和人
〒241-0817
横浜市旭区今宿町 2-60-1
会報幹事 / 小島和人、井草長雄
川名真理

キリマンジャロ紀行 その二

佐藤恭・中川滋夫・遠藤晶土・
蛭川隆夫・小野肇・小島和人

(2008年10月のキリマンジャロ山行、会報114号に続く報告となります。編集部)

回想・キリマンジャロ

中川 滋夫(昭36年卒)

キリマンジャロで思い出すのは、映画「キリマンジャロの雪」の主役女優エヴァ・ガードナーの艶姿である。遠くを見つめる切れ長の目、蠱惑的な微笑を浮かべる口もと、長い手足の所作の美しさ、「こんな女性が世の中にいるのか!」と彼女の魅力に圧倒されてしまった若き日の事を思い出す。

後年、映画談義で、「日本で彼女に似ている女優は誰か」が話題になった時、ある人は東映ヤクザ映画の女壺振り役の江波杏子と言いい、ある人はフランメンコ・ダンサー役で花を口に啜えた松坂慶子だと言つ。いずれも一面を捉えてはいるが、エヴァ・ガードナーがかもしだすトータルな魅力、敢えて言うならば雰囲気が違うなどと言いつたものだった。

最近「キリマンジャロの雪」のDVDを観た。ヘミングウェイの記者・作家としての自由奔放な生きかた 狩猟・フィッシング・従軍志願 それにともなう愛の遍歴、まさに彼の生涯の一部を切り取った如き映画に、端で観ていた家人は、「男はロマン、女は安定よね」とつぶやいた。

ヘミングウェイが小説の構想を練ったといわれるケニアのアンボセリに、登頂後一泊した。朝方、南東方向にどつしりとした巨大な台形のキリマンジャロが見えてきた。その全く同じ景色が映画の中に出てきた時、小説と映画のオーバーラップに、その場所に立てた実感が加わり、何か不思議な気分になった。

キリマンジャロのいくつかの登山ルートの中で我々が採ったルートは東面からの登り口、マラング・ルートで、別名コカコーラ・ルートと呼ばれている。登山道が整備されていること、途中、三個所の山小屋があるのでその様に呼ばれているらしい。どのルートにせよ、ガイドなしには登れないことになっており、ガイドは、パーティーの人数、ルートに応じて、アシスタント・ガイド、コック、ポーター等を手配、指揮する。我々の場合、ガイドに、アシスタント・ガイド3名、コック1名、ウエイター2名、ポーター12名、合計19名のサポーター部隊であった。

印象的なのは、ガイドは英語がよくできコミュニケーションは全く問題なかったのと、彼等の身体能力の高さには驚かされた。登頂日、4700mのキボ・ハットを真夜中に出発し2ピッチで、Sさんが高山病で調子悪く引き返すことになり、アシスタント・ガイドのM君と共に下りた。M君はキボ・ハットまで戻り、踵を返して再び我々に追いつくまで、別れてから1時間強、あまりの速さに正直びっくりした。まさに韋駄天である。

彼等の強さ、速さはこの正月の大学箱根駅伝でも痛感した。花の2区、山梨学院大のモグス、昨年自分が出した区間新記録を更新し2年連続区間新、同じ2区で20人抜きの大記録を出した日大のダニエル、共にケニア出身だが、彼等高地民族のスピード・馬力は規格外、モノの違いを見せつけられた。オバマ新大統領の父親もケニア人とのことだが、2年間にわたる予備選・本戦を勝ち抜き、かつての政敵ヒラリーを取りこんだ新聞僚人事といい、何か期待をいだかせるバラク・オバマにエールを送りたくなつた。

我々のルートで考えられるリスクは、突然の大噴火・落雷・落石(これはたまにある)ぐらいで、低地民族で地球温暖化に慣れ切つた我々にとつての問題は、高度順化と低温下での登山といえる。最短距離の南面ルート、

距離のある西面ルートからは、少なくなつた
とはいえアイス・フィールドが残つており、
特に西面ルートでは頂上附近で豹の屍に出合
えるかも知れない。

14日に登山を終えた6人は身体休めも兼
ねて4泊5日のサファリの旅に出ました。目
的地は特に有名になつた場所を避け、玄人好
みのサファリです。(編集部)

サファリ報告

遠藤 晶士(昭37年卒)

10月15日 アリユーシャ經由タランギー
レへ。

8時30分、モシ養、9時30分、10時00分
アリユーシャの観光会社。13時、タランギー
レンパロツジ着。チエックイン後ゲームドラ
イブ

モシ郊外の気分の良いホテルをチエックア
ウトしてアリユーシャへ。そこで、サファリ
用の小型バスに荷物を積み替える。銘々の沢

山の荷物を屋根に積み上げ、積み切れぬ分は
車内に詰め込んで、それでも我々の席はどう
にか確保して、小型バスはタランギーレへ。
人家が途絶える。人の気配はマサイ画とビー
ズ細工を売る小屋がポツポツとあるのみと
なつて、タランギーレのゲート着。

点在する巨大なバオバブの樹皮が削られて
いる。増えすぎた象の仕業だと、今回の運転
手兼ガイドのジョン君の説明だ。一度、ロッ
ジにチエックインをして、また、改めてゲー
ムドライブ。サファリとはスワヒリ語で「旅」、
「ゲーム」は「獲物」の由。1936年に発表
されたヘミングウェイの『キリマンジャロの
雪』では、主人公はまだ狩をし、テント暮ら
した。20世紀の *the quarter* に今の状態に
なつた由。

10月16日 タランギーレからナトロン湖へ。
8時出。11時40分 MONDUR DISTRICT
14時 ナトロン湖

ナトロン湖へは時間がかつた。大地溝の
延長と思われる谷底へ下りていくかと思えば
また車は喘ぎながら登り返す。大きな上り下
りがないところでモガタガタ道で若いジョン
でも頻繁なギアチェンジに腕がパンパンにな
ると、「トイレ」と一人が要求する。加齢に加

え、現役の前立腺ガン患者を二人も抱えてい
るパーティーだから当然だ。ジョンも心得て
いて道を外れ小山に。この山は OLDONKO
LENGA(MT. OF GOD)で、噴火口は SHIMO
LA MUGU(HOLE OF GOD)。マサイが生贄
を捧げて祈る神の山だと。やー、初めて現地
の神に会つた。神様大好き人間は私だけでは
ない。ジョンにスベルも書いてもらつて大感
激。

さて、下を見ると高さ50センチ程の小型の
鳥居がある！ 時間・空間を超えて鳥居の原
型をここで発見するとは！ 神様大好き人間
達は大喜でカメラに収める。道が落ち着い
た頃「ジョン君、あれは、なんだ?」「あー、
あれはあの娘達の売り物のビーズ腕輪を飾つ
ておく台だよ。呆気ない結末でした。

突然、立派なロッジが並ぶナトロン湖の
キャンプに着く。こんな地の果てにも白人は
先ずファンダメンタルを整えるのか。しかも
白人のグループの客がいる。感心の一言だ。
遅い昼食後、NとEを置いて、4人は近所の
沢登り。ザワメキ落ちる立派な沢を腰まで水
に浸かつて遡上している気持ちよさそうな写
真数枚を後で見せてもらった。4人の帰着を
待つて今度は全員でナトロン湖へフラミンゴ
見物に。夕闇迫る湖で遠目に無数のフラミン
ゴの群れを見て帰る。



マサイ族の村で村人と記念撮影（有料です）。

10月17日 アリユーシャへ
8時40分 12時、レストランで昼食。
15時、ショッピング 16時、ホテル

ナトロン湖は秘境だ。往復に時間がかかり、行く人は時間と金を浪費する。だからこそ秘境なのだ。昼食は久しぶりにランチボックスでなく国道から一歩入った林の中のレストラ

ンで気分良く。そして、アリユーシャの街中へ。我々の希望通り、土産店でない、地元の人が買物をする店で土産物を買う。コーヒー専門店では好みの味のコーヒー豆を好みの分量、好みの細かさにもらう。隣の大きなスーパーマーケットでは、缶入り紅茶、コーヒー、塩を買い込む。忽ち棚は空っぽになり、一同満足してホテルへ。夕食後Sが傷薬の名目で担いでいたウオッカを開けて「反省会」。反省より、次回のターゲットで盛り上がった。

10月18日 アリユーシャから国境を越えアンボセリへ

7時40分出。9時40分、10時40分国境。ジョンと別れケニヤ側のバスに乗り換え。12時アンボセリ入り口。13時ロツジ着。14～18時ゲームドライブ

朝、少し雨が降る。この時期アフリカでは当たり前かもしれないが今回は天気恵まれた。今朝の雨で埃が多少おさまった。

アンボセリはヘミングウェイが『キリマンジャロの雪』の構想を得た場所だ。今日はお目当てのキリマンジャロはうつつすらとしか見えなかったが。

サファリではいろいろな動物を見た。中で印象に残る数々。象が車道を動かず我々も彼

（だと思いが）が動くまで5分以上も静かな時を過した。ライオンが二頭で一頭のイボイノシシを追いかけたが、お互い打ち合わせがないので取り逃がした。ライオンが5頭で盛大に獲物を食べているところ。ライオンは矢張りスターだ。

ハイエナは大きく貴禄がある。しかも自分で獲物を獲るのだと。ジャツカルは往年の名著『ジャツカルの日』からの私のイメージと異なり、貧相でハイエナの余り物にありつく小動物なこと。インバラのオスは一頭がメスを独り占めして残りのオスは、バチエラー組（ジョンの言葉）を作った所在無くブラブラしていること。（このバチエラー組には方々で出会って、その度に我が身を鑑みこちらもしょんぼりしたものだ）。

マサイ部落見学ツアーもして、ロツジ。今夜もウオッカ・パーティー。

10月19日 7時30分出。13時40分空港
16時40分、定刻どおり帰国の便発。

帰途の臨席は大きな黒人。えらく人懐っこくしきりに話しかけてくる。こちらも予ての疑問を投げかける。「何故あんなに沢山いるシマウマを食べないのか？」彼は淀みなく答える。「習慣の違いです。日本人が猫を食べな

いのと同じです」成る程な。

彼は国際会議に出席のため日本へ行く途中だという。他のメンバーは先に行ったが彼は風邪のため遅れたのだという。オイオイ、冗談じゃないよ。うつされたら大変だ。帰国後は忙しいのだ。あらゆるスケジュールをこの山行の為に延ばしているのだ。それに、帰国後倒れたら、キリマンジャロに登れた体力はなんだったかと他人に後指を指される。彼には申し訳ないけれど後は眠ったふり。話をしないことにして、乗換えの空港であつちの隅で一人ポツネンとしている彼も無視して無事帰国しました。あーあ、これから、忙しい。

費用や準備

小島 和人(昭40年卒)

キリマンジャロから帰って7ヶ月、いまだにあの時の高地歩行の感覚に痺れていて次の目標が決まっていない状況ですが、キリマンジャロの話を知人すると殆ど同じ質問に出くわします。ご参考に報告させていただきます。

費用

一体いくら掛かったのかとよく訊かれます。古くなって買い換えたシラフとか高所で

の冬用下着などの購入費、検査や予防の医療費、長者ヶ岳・障子が岳・富士山など準備登山、そして三浦ベースキャンプでの低酸素トレーニング代、帰りの土産代等を除いて、羽田を出て羽田に帰るまでに掛かった費用は一人当たり55万円+100米ドルで少々お釣りがありました。蛭川幹事の、調べて比べての御努力の賜物でこれだけで済みました。

内訳を御説明しましょう。ナイロビ往復航空運賃(エコノミー、含むサージャージ)18万6千円、現地旅行会社(現地宿泊、食事、車、山行ガイド&サポーター等現地での全ての費用)29万5千円(2677米ドル)が大きな費用。それ以外にヒザ取得代2万8千円、公物薬品・食料7千円、現地への土産代5千円、登山中のガイドチップ1万7千円(160米ドル)、ホテル・ドライバのチップ、公物飲料水代など1万3千円。それに下山後キリマンジャロビール・南ア産ワインなど毎夜美味しく頂きましたが、一人当たり5晩で約1万円と大変お安く済みました。出発直前の円高も神風でした。

皆さん興味があると思われるのはガイドへのチップだと思います。それぞれ一日あたり米ドルで、ガイド15ドル、アシスタントガイド・コック10ドル、ウェイター8ドル、ポーター7ドル。これ以外に全工程での指導力に

対しガイドに30ドルの特別チップを加えました。これは現地旅行会社の情報をベースにガイドとの交渉で決まりました。総勢19名のサポーター部隊の人数も各チップの金額もガイドとの話し合いで決めました。それから登頂の日、強力な支援をしてくれたガイド、アシスタントガイドに対して各自それぞれの気持ちでポケットマネーを渡していました。中川リーダーの回想にもあるようにガイド、アシスタントガイドは遅しく真面目で登頂の日は実に良くサポーターしてくれました。

準備

次によく訊かれたのが「あまり山に行っていないお前が何故5700mまで登れたのか？」

私は「ロマン溢れるキリマンジャロに行ってみたかった。それで仲間に迷惑のからぬ様、それなりの準備をした。氷雪技術など要らない安心な山だが、高所低酸素は危険もある、頂上まで行けなくとも出来るだけ近くまで行きたいと思って行ったら、運よく行けたのだよ」と答えていました。これから高齢者になって再び山に行ってみたいという私のような会員もおられると思うので私の準備を簡単にお話します。

まず体力です。前々年ニペソツ山、前年利

尻富士に針葉樹会員に連れて行ってもらっていて、一日10〜12時間歩く経験はしていましたが、キリマンジャロはその前に3日間1000m連続して登る必要があります。それで10kgぐらいの荷を背負って一日5〜6時間、5日ほど連続して歩く訓練を、横浜郊外でしました。辺鄙なところに住んで家の周り坂がいつぱいで幸いでした。75歳までは筋肉強化が可能な佐藤さんのアドバイスを信じて歩きましたが、隣人達は何してんだろーと不思議に思っていた事でしょう。

次が健康対策。一年前の眼底出血では通院中。若い時から胃腸が弱く、最近胃酸が逆流して咽の奥に炎症ができ、咳が出る食道ヘルニア。首の後ろの筋肉に小さな石灰のようなものが溜まっていて頭痛を起こす筋肉疲労。加えて三浦ベースキャンプで低酸素睡眠訓練中に発見された睡眠時無呼吸症候群。いずれも高山病とすぐ仲良しになりそうな欠陥だらけ。蛭川さんが前号で紹介している松野医師以外にありっただけの知り合いの医師に相談して徹底的に対応しました。自分の健康に自信を持ち出発したかったです。一ヶ月前から登頂の日までは5種類位の薬を飲み続け体調をベストに持っていくよう備えました。

そして高所低酸素対応。基本的には、体調を整える、体力をつける、低酸素に慣れる、

の3点と理解してましたので上記の準備に加えて、蛭川さんが前号で紹介している、富士登山と頂上泊、三浦ベースキャンプでの2泊とトレーニング3回。いずれも効果絶大でした。そして登山の初日からダイヤモンドクスを毎朝一錠、登頂の日は二錠、松野医師の教えを忠実に守りました。

登頂直前の仮眠時間、一睡もできず2回寒い中で神経性のトイレに行きました。月明かりの中で頂上の方を見ながら、「登頂の日は眠れなくても気にしないで。父も眠れなかったのだから」との三浦豪太さんの言葉を思い出していました。そして好体調に恵まれ、初体験の高所・暗さ・寒さの緊張感と戦いながらギルマンズポイントに立てました。